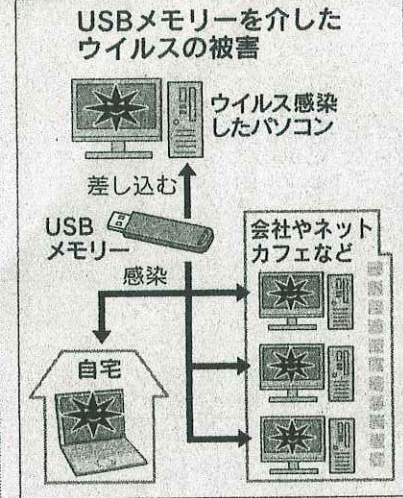


USBメモリーで感染

USBメモリーなどの外部記憶媒体に感染する新たなコンピュータウイルスが相次いで見つかっている。独立行政法人の情報処理推進機構(IIPA)には昨秋以降、このウイルスの検出報告が急増。職場などの共有パソコンでUSBメモリーを利用することで感染が拡大しているとみられる。感染に気付かず使いつづけているケースも多いため、IIPAは注意を呼びかけている。

このウイルスは「オーラン」と呼ばれ、感染したパソコンにUSBメモリーなどの外部記憶媒体を接続すると自動的に

▼ID盗まれる



ウイルス警報発令中

月間検出数

10万件

に入ってから。電子メールなどに添付されるなどして検出されたウイルスの数は、八月までは一カ月に最大数百件程度だったが、九月に約一万二千件、十月に約六万二千件、十一月には約十万件と急増した。実際にUSBなどへのウイルスが特定できない場合などはパソコンや媒体を初期化しないと削除できないケースも考えられるという。

秋から急増 100種類

感染を訴える相談も昨年九月と十月はそれぞれ数件程度だったが、十月と十一月は十件を超えた。ウイルスの感染により「オンラインゲームサイトのIDやパスワードが盗まれ不正アクセスされた」「ほかのウイルスもダウンロードさせられた」などといった被害がとれている。

IIPAは「USBメモリーなどは大容量化と低価格が進み、利用者が増えていることから狙われている。ネットカフェや職場での共有パソコンを通じて知らぬ間に感染し、気付いていない利用者もかなりいるはず」と指摘。「最新の対策ソフトでチェックするなどし、おかしいと思ったらすぐに相談してほしい」

▼「すぐに相談を」